

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201042
法人名	有限会社 かけはし
事業所名	グループホーム かけはし
所在地	福岡県福岡市西区愛宕南二丁目13-23
自己評価作成日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設10周年を迎え、安定した介護を行い、地域、医療との連携も進めている。
 馴染みの職員も多く、効率よく介護を行い、レクリエーション等も充実してきた。
 利便性の良い位置にあり、面会も来やすく、通院、買い物、喫茶店も気軽に利用でき、外出の支援も
 行っている。
 職員研修の機会をつくり、支援を行ない、全員で資質の向上に努めている。
 定期的にボランティアの方もお願いし、入居者が楽しい時を過ごせている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利便性の高い市街地に位置し、コンビニエンスストアや喫茶の利用、買い物等を支援し、また、地域の
 行事やリサイクル活動等に参加することで、地域の一員としての暮らしの営みを支援している。医院とし
 ての歴史や、代表者が地域住民であることから、一つ一つ関係性を積み重ね、地域の中での存在を高
 めている。野球観戦や観劇、室見川の白魚漁や柳川の有名店での鰻を味わう機会を持つ等、積極的に
 外出支援を行っている。研修の内容や機会の確保に向けた働きかけも充実してきており、「自由に選択
 し、自由に生きる」の理念のもと、専門職としての職員育成に努めており、より良いケアの実践に向け
 て、事業所全体の資質向上に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年3月31日	評価結果確定日	平成26年7月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者本位のもとで、生活を送ってもらっている。管理者を初め職員全員で「自由に選択し、自由に生きる」の理念を大事にし、実践している	理念「自由に選択し、自由に生きる」を基に、残存機能を最大限尊重し、自立の支援を念頭においている。ミーティングでは理念を掘り下げ、職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者はこの4Fに居住しており、ご近所との十分な繋がりがある。会議の出席やこちらの防災訓練にも参加をしてくれた	町内会に加入し、入居者とともに、近隣への買い物、地域行事への参加、リサイクル活動等、地域の一員として活動している。医院としてのこれまでの歴史もあり、地域の中での存在を高めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣へ入居者一人、また職員と一緒に出かけ、お店も利用したりと顔見知りになっている。見学はいつでも受け付け、ボランティアもお願いしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	こちらの状況を伝え、参加者から情報や意見をもらい、意見を交換し、情報の共有やより良いサービスに繋げている	入居者、家族、地域住民代表者、地域包括支援センター職員、知見者等の出席を得て、定期的に開催されている。運営状況や行事報告を行い、意見交換に努めている。行政担当者への案内も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には運営推進会議の出席依頼をし、毎月の会議の記録と共に送付している。地域包括支援センターからは、運営推進会議に毎回、出席してくれている	行政担当者より、事業所の運営に関するアドバイスや情報の提供を受けながら、連携を図って行っている。運営推進会議では、地域包括支援センター職員よりノロウイルスの対応等について指導を受けている。ケースワーカーの方との関係を図り、定期的に介護計画等について情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の介護の中で身体拘束になる事項を確認し、禁止している。看護師からも、接し方によりその必要を感じなくなる等のアドバイスを受け、実践している	日中、玄関の施錠は行っていない。内部研修の中で、言葉使いや対応による、より良いケアの実践について、共有認識を図るよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	必要な世話をしない事も虐待につながる事でも理解している。入居者の暴力に対しても危険がないように交わり、その方の気持ちを考えながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援を受けている方が、成年後見制度を利用することになった。内容を理解し、対応をすることを踏まえ、活用している	現在、成年後見制度を活用している方もおり、運営推進会議において、地域包括支援センター職員より情報提供を受け、それを元に内部研修を行い、資料の整備、及び職員の理解を深めるよう取り組んでいる。福岡市の市民後見人養成講座の実習生を、受け入れた経緯がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	よく見学して頂き、契約書の説明後持ち帰り、良く理解してもらい、質問を受ける納得できる体制を取っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市から等のアンケートの機会を利用し話をしたり、必要時は電話や来館の依頼をして意見を聞いて参考にしている。 会議や行事の際は出席のお願いをしている	運営推進会議には、定期的に家族の参加を得ている。入居者の希望による野球観戦、外食、観劇等、外出時には家族にも案内を行い、家族と共に外出の機会を確保している。	家族との情報共有や、より積極的な意見や要望の収集の機会の確保に向けて、定期的なアンケートの実施や家族会の発足等について働きかけを行うことが期待されます。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の話し合いの際に自由に意見を述べる機会を持って、管理者と全員で検討し、提案等も反映させている	毎月1回のミーティングや、必要に応じて其の都度のカンファレンスを行い、意見を出し合っている。管理者は休暇等、希望シフトに応えられるよう工夫し、職員が働きやすい環境づくりを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入社時に仕事の内容の説明、見学をして、ここの職場環境を知ってもらっている。その上で、個人の都合を聞き、無理なく働けるように対応している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、国籍にこだわらず働く意欲を重視し、採用し、入社後も、個人の都合をその都度申告し、便宜を図っている。勤務の調整等を行い、個人の社会参加に支障のない様に配慮し、研修情報を伝え、その推進をしている。	職員の募集、採用にあたっては年齢、性別によって採用対象から排除する事は行っていない。外部研修参加に向けたサポートや、資格手当の支給等、個別のスキルアップを奨励している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月のミーティングで研修の機会を設け、勉強している。疑問や問題のある時は話し合い、自由に意見を述べるようにしている	一人ひとりの人権を尊重する為の、言葉掛けや関り方を、毎月のミーティングで話し合い、新人研修では事業所としての統一を図って、人権研修を行っている。	見えない拘束や虐待についても、年に1回は具体的な事例をもとに研修の機会を確保する等、様々な視点から継続して事業所全体の意識を高めていくことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その人の好きをとらえ、個性を重視し、力を伸ばせるように支援している。出来ない事は教え、適材適所を心掛けている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流が持てるように、外部の研修を受けれるように勧めている。内部でもその時の話を聞ける機会を作っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい環境づくりをし、傾聴するように努め、その方の思いに寄り添うようにしている。こちらの立場も説明し、安心してもらえるように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できるだけ多くの家族と面談を行い、入居者の事だけでなく、家族一人ずつの要望を聞く様になっている。意思の疎通を図る様に心掛けている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞いて、今行われている内容でいいと思う等の確認をし、こういう事をするかと思う事はアドバイスをおくり、検討してもらう		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に話したり、手伝ってもらったりしている。冗談を言い合い、笑ったり遊んだりできるように心がけている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも訪問して下さいと伝え、来られたら気持ちよく過ごしてもらえるように対応している。意見等は真摯に受け止めて、検討している		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚でも友人でも自由に入出入りできるようにと考え、気軽に話ができるように声をかけている。馴染みの場所への外出も支援している	家族との連携を図りながら、法事や墓参り、盆・正月の外出等を支援している。開設当時から入居されている方もおり、近隣の買い物や地域のリサイクル活動、行事参加等、地域住民としての関係継続の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	軽いいさかいをしても見守り、言いたい事を言い合う関係を築いてもらうように気を付けている。入居者同士、井戸端会議のような時もあり、寂しい人には励ます言葉かけもみられる		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で一時中断している時も含め、面会したり様子を聞いたりしている。家族からの情報、連絡もお願いし、相談があればいつでも応え支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声かけを行い、折あそば話を聞き対応するようにしている。様子観察をし、入居者の気持ちを察するように努めている	「自由に選択し、自由に生きる」の理念のもと、外出や嗜好品の摂取、晩酌の継続等、柔軟な対応と支援を行っている。日々の記録についても、主観的な情報を大切に捉えるよう、職員教育を行っている。意向の把握の困難な方には、家族からの情報等を受け、本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から汲み取れるところは大事にし、関係機関から情報がもらえるようお願いしている。親戚等から聞ける話は聞き、書面に残している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中はデイルームで皆と過ごしてもらう事で、できるだけ、その日の様子を把握し、無理なく生活を楽しくしてもらえるように心がけている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を初め、照会、日勤、夜勤の職員と担当者会議を開いている。家族にもその意向を聞き、計画に反映させている	毎日の実施表記入により、介護計画に基づいた実践について、意識付けを行っている。定期的に、家族からも意見や要望を受け、入居者参加で担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉を含め、どういう一日を過ごしたかを総合ケア記録として個別に記入している。特に変化があった時は介護日誌にも記入するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事の際の飾り作り等、声かけをし出来る範囲でもらっている。気分を変えるために戸外へお連れしたりとそのタイミングで良さそうな支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地下鉄の駅も近く利便性があり、様々なお店もあり、気軽に利用できる。桜など花見もできる場所にも恵まれ季節も感じることができる		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師の往診も月に2度受けていて、何でも相談でき対応してくれる。家族の希望があれば他の主治医にも診てもらっている	入居時に、かかりつけ医の確認を行っている。現状としては、協力医による往診を受けている方が多い。その他のかかりつけ医への受診希望にも、家族と協力しながら支援を行い、適切な医療が受けられる様支援を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は定期的に出勤し、毎日出勤している准看護師とも連携している。看護的な把握も十分で、褥瘡などの処置も的確に職員にも指導できて、完治している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に病院に出向き、医師を初め、必要に応じ理学療法士等医療関係者に様子を聞き、退院に向けての支援を模索している。退院後のアドバイスも受け、退院後も必要に応じ受診している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	機会をみつけ、本人や家族にこれからどういいう医療や終末期を過ごしたいの希望等を聞いて、書面に残すようにしている。こちらでできることや出来ない事も説明し理解してもらっている	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に、指針をもとに事業所としての方針を説明している。状況の変化に伴い、その都度の意向確認を行い、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修を受けた職員が講師になり、研修内容を発表をし、質問に答えている。緊急時の対応に備えて、対応方を目につく所に掲示し、詳しいファイルも備え、意識も持っている。いざという時は協力できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は消防士も来てくれ年2回行い、入居者も含め実践し、反省会も開いている。地域の方も参加してくれ、ご意見を伺い協力体制もできている	年2回、消防署立会いのもと、避難訓練を実施している。代表は当ビル4階に長年居住し、地域住民とも懇意な関係にあり、避難訓練には地域住民の参加を得ている。備蓄も完備している。現在、地域の避難場所としての活用も視野に入れている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お互いに言葉かけに注意し、おかしい時は職員同士で注意するようにしている。会議でも丁寧に対応するように、プライバシーは重視するようにと再三話している	日々の業務の中で、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。特に排泄時や入浴時の声かけには細心の注意を払っている。徘徊ネットワークへの情報提供と連携には、守秘義務について充分理解し、責任ある取り扱いと管理を徹底している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様子観察をした上で、機会を見つけ、声かけし共感する姿勢を取っている。こちらからも察知できるように心がけ、提案ができることはして、意向を汲み取る様にしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	嫌な気分にならないように、無理強いせず、できるだけその日の気分や、状態に寄り添うようにしている。特に重要でない事は細かく注意しないで本人に任せている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	下の世話ばかり重要視せず、髪、顔、爪、髭等も綺麗にする事も忘れないように気を付けている。余裕を持って洋服などのおしゃれなどの支援にも配慮している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	マンネリ化しないように、順番でメニューを考え、年間行事に沿って行事食を提供する等工夫している。個別に形状を変え、好き嫌いも考えて提供している	2、3階それぞれに、職員が調理を行っている。また、食の楽しみは生き甲斐に通じるという思いから、積極的な外食の機会を作り支援を行っている。嗜好品の摂取等にも、柔軟に対応している。	献立については、もう少し詳しく記録として残し、バランスやカロリー等、検証する機会を持つことが期待されます。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減、体調、便の状態等を把握している。医師とも相談しながら、食事や水分の量を考え、食欲を観ながら個別に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの徹底を図るため、チェック表に記入するようにし、職員間で忘れないように気を付けている。その方に応じた介助を行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、検証しながらトイレ誘導を行い、医師に相談の上、下剤の調整を行っている。おむつの数も把握し、無駄のない様になっている	排泄チェック表の作成や一人ひとりの仕草等から個別のパターンの把握に努め、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間はそれぞれの状況に応じ、ポータブルトイレや尿器等も活用している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カンファレンスでも便秘は心身ともに影響する事等を勉強し、便秘しないように運動、食事、水分摂取、排便のスタイル等、毎日気を付けている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	土曜日を除いて毎日入浴できるようにし、体調やその方の都合に配慮している。入浴の仕方は好みを聞き、満足感を得るように対応している	土曜日以外は、毎日入浴準備を行い、希望や状況、体調等に応じて、柔軟な支援に努めている。入浴を拒否される方には、声かけ等工夫しながら様子を見て、臨機応変に対応している。花の形の石鹸等を用い、ゆっくり寛いで入浴出来る様支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを乱さないように、静かに休めるような環境を作り、様子観察に努めている。寝具の調整や眠れない時には支援し、続くときは医師に相談し対処している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理を行い、間違いのない様に介護職も二重に確認し、確実に服薬介助している。体調の変化があったら報告し、必要に応じ医師にも相談を行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	意欲のある方はゴミ捨て、お茶碗拭き、洗濯物たたみ等をしてもらっている。以前からどうい生活をしてきたかを確認し、楽しみがみつかるように提案している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば早めに行き、訴えがなくても気分転換のために順次支援している。家族も応援してくれる時は嬉しい、散歩、散髪、外泊も協力してくれている	ホームは市街地に位置し、向かいのコンビニエンスストアや喫茶店、食材の買い物等、日常的に外出を行っている。代表も外出推進の意義を大切に捉え、家族にも案内し、野球観戦や観劇、柳川までの外食等、積極的な支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	解かる方はお小遣いを定期的に提供し、使用できるように支援をしている。お金を持つ事で安心される方はその額を把握した上で、所持されている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われる方は支障のない様に手伝っている。手紙は要望があればいつでも受付ける		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度、温度、換気に随時注意を払い、環境を整えるように心がけている。季節の花を飾り、行事や写真、書道等の作品なども掲示し憩いの場となるように気を付けている	既存の建物を改修し、2、3階に位置する事業所は、市街地の中にありながら、静かな環境となっている。居間兼食堂にはソファも置かれ、それぞれの場所での寛がれる風景があった。3階中央テラスは、洗濯物を干したり、日光浴が出来、寛いでもらっている。壁には入居者の作品が掲示されており、会話のきっかけとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファとテーブルと椅子の間に空間があり、その時々で自由に移動でき、移動が難しい人には気持ちを汲んで介助し、それぞれが落ち着ける様に配慮している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から好きな物を持ち込んでもらい、配置を考えている。部屋の担当を決めて整理整頓に努めている。様子が変わったら、居室の移動も行い、臨機応変に対応している	生活感のある居室も多く、間取りや設備はそれぞれ異なる。希望や状況に応じた対応も可能であり、馴染みの物品が持ち込まれ、動線等にも配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩きやすい床、ドアの調整、耐熱カーテン等の配慮をし、動きやすく、安全に注意している。手すりも設置、動きやすい動線も考えている		